

日光市公共施設適正化推進市民委員会会議録

件名	第一回市民委員会		
日時	平成29年6月28日 10:00～11:50	作成日	2017年7月21日
場所	日光市役所 第3庁舎3階 第3・4会議室	記録者	管財課 斎藤
出席者			
<日光市> 斎藤市長 阿久津行政経営部長 田邊管財課長 伊東公共施設マネジメント推進室長 管財課公共施設マネジメント推進室職員	<市民委員会メンバー> (出席委員、アドバイザー名簿別紙) (敬称略)		
議事内容			
<p>■配布資料 第一回市民委員会資料 資料1、資料2 別添参考資料：日光市公共施設マネジメント計画、公共施設マネジメント計画実行計画、周知マンガ</p> <p>■議事録</p> <p>1. 開会 ～事務局による挨拶～</p> <p>2. 委嘱状交付 ～斎藤市長より各委員へ委嘱状の交付～</p> <p>3. 市長挨拶</p> <p>「改めましておはようございます。大変お忙しい中、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。ただいま、委嘱状の交付をさせていただいた訳でありますけれども、これから長い期間になる訳ですが、快く委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの西尾先生におかれましては、当委員会のアドバイザーをお引き受けいただき、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>さて、日光市においては、高度経済成長期以降、社会環境の変化、市民ニーズの多様化などに応える形で公共施設の整備が行われ、現在600以上の公共施設があります。</p> <p>これらの公共施設の多くは、経年による施設の老朽化や設備・機能の低下が進んでおります。今後、大規模改修や更新が集中する時期を迎えることになります。</p> <p>一方で、急激な人口減少や少子高齢化の進行に伴い、税収の減少や公共福祉等にかかる費用などの扶助費の増大が見込まれます。そのため、すべての公共施設を現在の姿のまま維持し続けることは、市政経営に大きな負担となって参りますし、ひいては真に必要なサービスにまで影響を及ぼしてしまう恐れがあります。</p> <p>そこで日光市では、次の世代の負担を減らす適正な公共施設を目指して、平成27年8月に「公共施設マネジメント計画」を策定いたしました。</p> <p>そして、昨年7月には、個別施設の具体的行動内容をまとめた「公共施設マネジメント計画実行計画」を策定し、現在は、効率的で効果的な公共施設の適正化を実現するため、具体的に行動、実行するといった段階となっております。</p> <p>公共施設の適正化を進めていくためには、市民の皆様の理解と協力が不可欠であります。そのため、この「公共施設適正化推進市民委員会」を設置いたしまして、委員の皆様には、市民の代表として、情報や認識を共有しながら、公共施設の適正化を進めたいと考えております。</p> <p>公共施設の適正化は、短期間で解決する問題ではありません。今後数十年に渡る日光市の大きな課題でございます。日光市の未来にとって、非常に重要でありますので、活発な議論と忌憚のないご意見等をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたり、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。」</p>			

議事内容

4. 委員・アドバイザー紹介

- ・出席委員から自己紹介
- ・アドバイザーの紹介並びに挨拶
- ・事務局自己紹介

5. 委員長・副委員長選任

・委員長・副委員長の選出について、事務局一任との意見があったことから、事務局案として、委員長に自治会連合会副会長中川委員に、副委員長に公募委員の稲垣委員を推薦、全会一致で決定。

6. 議事

○中川委員長挨拶

「ただ今委員長に任命された中川でございます。日光市公共施設適正化推進委員会ということで、第1回目でございますので、不慣れな点もありますが、一生懸命務めさせていただきますので、皆様のご協力よろしくお願いいたします。」

○稲垣副委員長挨拶

「ただ今副委員長にご推挙いただきました、稲垣と申します。非常に身が引き締まる思いです。まず、マネジメント推進室では、これまで長期間に渡り個々の実態調査から計画の策定まで膨大な量の作業があったかと思えます。今回ここに至ったことに対しまして、敬意を表したいと思えます。ありがとうございます。」

この委員会はマネジメント計画の実際の具現化ということに向けた、総論から各論になってくるということで、多岐に渡って色々と関係してくる委員会だと私は認識しております。まず、目的を見失わず、常に原点に返って将来を見据えて、子供達、孫達を見据えて会議に臨みたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。」

○委員長

「それでは、これより会議次第に基づき議事に入ります。」

- (1) 公共施設適正化推進市民委員会の役割について
事務局より、資料1、資料2を用いて説明。

○委員長

「ただいまの説明内容につきましてご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。」

○委員1

「専門部会は本委員会委員長が招集するということですので、そういったものが必要になった場合には、この委員会とは別に開かれるということだと思いが、具体的にはどういったものが開かれるのか。」

○事務局

「予定しているのは、このあとの説明にも出てきますが、今、文化会館の統合集約等の検討等、個別施設ごとの検討になってくると、その施設周辺の地域の方とか細かい所で意見を聞く機会が出てくると考えております。そ

ういった時には、一応形的には専門部会と呼んでいますが、地域ごとに施設ごとに関わりのある市民の方に考えていただくような部会を作って、そこで検討した結果や話し合った内容については、この委員会にも報告をさせていただきながら、全体的な意見も伺いたいということで考えております。」

○委員長

「委員の皆様から他にないようでしたら、西尾先生から何かございますか。」

議事内容

○西尾アドバイザー

「多分難しいテーマで、何をやるんだろうと皆さん思われているところもあるかなと思います。実際役割のところにもかなり色々なことをやる内容で書かれていますので、今ひとつ明確でないという気がするかもしれませんが。私は全国で色々な事例を見ていますが、計画を作るときにこういった市民委員会を設置して一緒に計画を作っていこうという事例はあるのですが、日光市も計画策定段階でそれをやりましたが、それが、実行段階になった時に、またこういった市民委員会を作ってまた市民と一緒に実行していこうというのは、実はほとんどありません。私が知るところではほとんど聞いたことがない位です。

実行段階になると基本的に庁内（市役所）でやっていくというところが多いんですけども、日光市の場合は、実行段階においてもきちんと市民と一緒に議論しながらやっていこうということが形として表れているという風に思いますので、その市役所の姿勢は素晴らしいなと思って見えています。ですので、是非、皆さんも市民としての忌憚のないご意見をここで言っていただけるとすごく良いのではないかと思います。

私も市役所職員として仕事をした経験がありますので、今日の資料で、市役所の検討体制でも充実した内容が書かれていると思うのですが、実際にこれを庁内で進めていくことは凄く大変だと思うのです。色々との調整が大変だったり、もちろん庁内でも色々な反対がある中で、うまく調整して進めていかなければならないことなので、その時に外部というところにいる市民委員会が「これは大事なことから進めていくんだよ」という、市民委員としての推進力みたいなことが、庁内に返ってきて、庁内が進めていくということにも繋がっていくと思いますので、この問題、まさに市役所だけが取り組むのではなくて、市民も含めてオール日光で取り組んで行かなければならない取組だと思いますので、そのための重要な位置づけである市民委員会だと拝見しています。期待もしております。」

○委員 2

「今、西尾先生も仰っていたように、やはりこれを断行するためには、色々な抵抗勢力が色々な関係で出てくると思うのですよ、実行段階では。特に市民もそうですけれども、議員さんとかからもこの施設を無くすことはやめてくれとか。

そういう状況になってくると大変な話にはなってくると想像しているのだが、ただ庁内調整の中でこの公共施設マネジメント推進室が、ある程度業務の職務権限を持っていないと具体的なことが出来ないとは私思っているのです。

やはり縦割り行政の中で横串が通るようなそういう組織が出来るのかどうか。そういう形でないとい、推進室がリーダーシップをとって方針を形にできるような組織にしていけないとかなり難航するのではないかなと懸念をしているのですが。そこを現況で差支えなかったら、聞かせていただければ。」

○事務局

「資料 1、3 ページ目の図を見ていただくと、先ほど西尾先生の方からも庁内体制もこういった形でやられているのは良いですねとおっしゃっていただきましたけれども、こういった体制、「公共施設適正化推進会議」というものをトップにして、当然その上には市長がいる訳ですが、副市長ですとか、行政経営部長ですとか、総合政策部長、地域振興部長を交えた推進会議、その下に推進部会を作って、関係各課を作りました。

この体制は実際昨年度からこの体制で動き出しまして、実際には、マネジメントをするに当たって、何が一番問題かということを考えていくと、内部の抵抗というものもありますが、やはり、お金なんですね。昨年、実をいうとこの推進部会と推進会議を使いまして、市の実施計画なんかと合わせて、来年度こんな事業をやります、こんな事業をやりたい、こういう建物を直したいというものを全て出してもらいました。

これまで、公共施設というのは、政策的に金額がかかるもので、いくら以上というもので審議はしておりましたが、昨年度からは、金額が少額の細かいものであっても出してくださいということで、それが全てマネジメント計画実行計画に沿ったような、事業計画になっているのか、例えば施設の改修計画を担当課が出してきたとしても、マネジメント実行計画上で来年統合しようとしている施設を今年お金をかけて改修したいと言っている、では、統合計画はどこまでどんな風に進んでいるのかということを確認した上でないとその改修自体をやるということはおかし

議事内容

いですよねというような内容をこの部会の中で昨年度から調整するようにしました。

当然、それでもまだ、実施計画時の事前調整の時に出てこないで、予算の段階になって、事業費用を計上するという例もありましたが、昨年度ある程度一定の成果があったのではないかと思うのは、そういった事業の調整をやらせていただいた上で、予算要求の段階でも同じようなチェック、調整というものをやったんですね。

財政レベルでもマネジメントというのは個別の施設ごとにどうかということではなく、全市的に調整するということが重要だという認識のもとで、その辺が昨年から具体的に組み組めたのかなとは思っています。

それが、全てうまくいっているかということ、まだまだ難しいところではありますが、推進体制をそういった組織を作ったうえで、将来を見据えた計画に沿ったような形、また計画で示したプロセスを踏んでいるかどうか、その辺を踏まえた予算措置をさせていただいたところからすると、前よりも、昨年度この公共施設マネジメント推進室という組織を昨年の4月に立ち上げて、組織横断的に組み組めたということは、少し進歩であるのかなと思っているところです。」

○委員長

「それでは、次に次第(2)日光市の現状と課題について事務局より説明をお願いします。」

(2) 日光市の現状課題と公共施設マネジメントの取組み

事務局より、資料3を用いて説明

○委員長

「ただいまの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。」

○委員3

「質問というか、これからお願いをしなくてはと思っているのですが、校長会の方で、全市的な公共施設マネジメントの考え方を話す機会というのはなかったですよ。今の説明を聴けば、面積が市の公共施設の4割を占める学校教育系施設があって、複合化等をしなければならないということがあり、そういう状況が市全体で示されて、進められているということを学校現場は、どうしても教育委員会が別組織になっているから、教育委員会だけでと考えている方が多い。

多分、こういったマネジメントの取り組みを進めるのに、これからの校長先生方にもってもらうために、実はこの1～2年で校長先生が代わっていく関係もあるので、その世代の校長先生方は必ず関わることになるかと思うので、役員会で提案してみますが、できれば校長会で、研修の時間を持っているので、そういう場で話をさせていただいた方が今後進めていく上で、理解してもらった上で進めていくことが大事だと思うので。そういう機会をもっていいただければいいかなと感じました。そういったことは可能ですか。」

○事務局

「是非お願いをしたい。我々の方からもそういった機会を作っていいただければと考えているところです。」

○委員3

「校長会で外部の方の研修の時間も取れるので、通常、校長会への簡単な依頼等だと、校長会が始まる前の時間を使っているのだが、この話は内容的に研修の時間を使って、校長先生方が考えていかななくてはならないことだと感じたので。役員会に諮ってからにはなるが、お願いした方が良く感じました。」

・委員4

「今の話とも重複するのですが、自分の仕事の関係で、ここ近年小中学校のトイレの改修の発注が軒並みあがってきたり、今年度はエアコンの設置ということで、仕事が発注されているのですが、既に人口減少が明らかになっている段階で、例えば、先程ある小学校の現状聞かせていただきましたら、全校生徒で36人ということで、ゆくゆく、市の方でも小中学校の統廃合は考えていらいっしょなのだと思います。

それが何年後にどのような計画でということ、私達の方ではわからないのですが、それが例

議事内容

えば1年後なのか5年後なのかによって、現状子供達が生活しているのでやらざるを得ないという状況があって、今の子供達のためにやらなくてはならないというのはあるのですが、でも、将来それは無駄な費用になってしまうということで、ジレンマがあるとは思いますが。

現状を考えると、1つの教室にエアコンを設置するのに、約300万円と言われている。それはエアコンだけの費用で、例えば大規模な学校になると、大規模なキュービクルが必要になるので、何千万、億単位かかることになるかもしれない。そういった施設、小中学校の整備にお金がかかる現状と、何年後かに学校間の統合があるのかという所が市の方の計画がわからないのですが、ある程度のスピード感というのにも必要なのかなと思います。

先ほど説明にあった、藤原の総合文化会館が10%としか利用率がないのにそれでも維持しなくてはならないということは、民間では考えられないことだと思う。

西尾先生はその辺ご存知だと思うのですが、民間の手法を取り入れて、地域住民の要望等ももちろんあるとは思いますが、普通に考えて、10%程度の利用率の施設にいくら維持費がかかっているかわからないが、数千万とかの維持費がかかっているのだとすれば、ある程度のスピード感というものが行政側には必要なのではないかと思います。

先行きを見据えて、長期計画等を立てて、それに乗っ取ってやってらっしゃるのだとは思いますが、前倒ししてやらなくてはならないものは、前倒してコストの削減が出来るのであれば、その辺のところも必要なのではないかと思います。」

○委員長

「今のお話は、自治会連合会の方でも何年か前から話に出たりして取り組んでいます。民間の空き家問題からこの公共施設の問題、今、委員がおっしゃったように今現状で何千万とかというお金を施設に投資すると、将来的に税金の無駄遣いというようなことにもなるかもしれないが、そこは無駄にならないようにスピードを上げてとは言っても、地域の人々の納得がいかないと公共施設の問題はなかなか難しい。

お金がかかるから施設をすぐ廃止にしますということで、行政が強制的に進めることができない難しい問題だと感じている。何年か前から、自治会連合会の方でも話が出されて、地域の中でも話をしていて、マネジメントの考え方、委員がおっしゃったスピード感をもって進めないとならないということも全くその通りなのだが、なかなか難しいかなと感じている。事務局の方で何か進め方等でいい考え等あれば回答いただきたい。」

○事務局

「委員4が仰っていた、学校のエアコンの話なんかは、昨年度から当然話題というか、庁内においても、議論の対象となっており、全校への設置等の必要性なんかは疑問としてはありました。

学校の教育環境の観点からすると、子供達の環境という面から言って、当然整備が必要ということはあるのですが、ただ、学校の統廃合が将来的に決まっていればというのはあるのですが、現在、教育委員会で「日光市立小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」というものは持っていて、基本的に、将来的には学校の再編をこう考えなくちゃならないという考え方は示していますけれども、どこどこを統廃合してというところまでは、示せてはいない。

学校というのは、やはり地域の拠点だったり、というところでなかなか難しいという所がある。そういった中で、先程のエアコン等はどこまで整備すべきかという議論はあったのですが、子供達の環境を考えて、基本的には今現状ある学校には整備すべきという判断をしたところです。ただ、自然環境的にエアコンが必要ないという学校もいくつかあり、そういった学校には整備しないという選択等、調整はさせてもらいました。

先程、委員2からの質問にもあったように、逆にそういった問題は一度全庁的な検討のテーブルに乗せて、議論するようにしました。昨年以前は全庁的な検討のテーブルに乗らずに、所管課から予算を計上して、全体的な視点で議論されることなく、事業が進むということがありましたが、昨年度からは、その辺は全て検討のテーブルに乗せて、どうして行くか（費用対を含めて、事業を進めるべきか）を考えるとという流れにはなっています。

そこでもう少しスピード感を持ってというのは当然考えなければならないことだと思っております。」

議事内容**○委員 5**

「藤原文化会館の話が出ていて、利用率が低いというのもその通りなのですが、一番のネックは駐車場があまりないということで、施設で開催する事業自体が、藤原文化会館で行うことを選ばなくなってきているというのが現状だと思う。

施設を統廃合することに私も賛成ではあるのだが、日光市は観光の町でもあるので、統廃合の議論の中に、観光課とか観光協会等の観光視点の意見等も反映させていただければ、もっと日光市のためになるのではないかと思います。」

○事務局

「藤原文化会館などは、鬼怒川温泉駅前という立地の中で、文化会館の附属施設として鬼怒川・川治観光情報センターが設置されていますが、ああいった観光情報センターは、皆さんああいった立地になくはないのだろうかと思っていらっしゃるのではないかと思います。

観光サイドの方ではそう考えているのだと思いますし、当然、文化会館の今後のあり方を考えるときに、駅前の立地ということで、観光という視点で検討することは避けては通れないと考えているところです。

文化会館をどう位置付けていくのか、また、10%とは言え、藤原文化会館を使って、観光事業者が利用しているというような使われ方等、日本で有数の温泉地でもあることから、逆に民間の温泉宿泊施設のホール等を上手に活用していくことはできないか等、観光サイドともよく調整して考えていかなくてはいけないところだと思っています。

それがどういう方向に行くかというのはまだわかりませんが、そういった観光都市として施設の視点も持って進めていかなくてはならないと考えております。」

○委員長

「ほかに委員からの意見がないようでしたら、この議題について、西尾先生からご意見等ありましたらお願いいたします。」

○西尾アドバイザー

「委員4からご指摘のあったことは、すごく重要なことだと思っていまして。施設を長寿命化するという話もあるんですけども、長寿命化をしたら、その施設は長く使うということになるので、それは、長寿命化するかどうかという判断をする時に、その施設を長く使い続けるかどうかという判断をしなくてはならない。

廃止すべき施設なのに、長寿命化してしまうと、先程のエアコンの話や改修の話もそうですが、大規模改修する時に、大規模改修するのであれば、それは、長く使うという判断がまず必要になってくると思いますので、そういったところで、無駄な投資をしないためには、やはり、廃止するものは廃止する、廃止しないで長く使うものについて、長寿命化したり、エアコン改修したりという判断がすごく大事ではないかと思います。

当然、委員長が仰っていたように、その施設を廃止するかどうかということに対しては、住民の合意とか納得という所が必要になってくるので、そこは十分に時間も手間もかけてやらなければならないことですが、一つ目安になるとすれば、施設自体の物理的な寿命というものがあると思います。

物理的にこの年までしか使えないという施設、期限が迫ってきている施設が多いと思いますので、それについては、物理的にもう寿命が来るという時までには決めましょうという判断が必要。

それ以上、そういった施設で、なかなか合意形成が難しいからといって、危険な状態のまま使い続けていくという訳にはいかないと思いますので、物理的な寿命というものを基準、期限として、そこまでに住民の皆さんに協力していただいて、方向性を決めていきましょうという風にしていくのが、一つの考え方なのではないかと思います。」

○委員長

「ほかに意見はありますか？他に意見はないようでしたら、(3)のその他について事務局から何かありますか」

議事内容

○事務局

「事務局からは特にありません。」

○委員長

「その他について事務局から特に議題はないとのことでありますので、西尾先生の方から総括ということで、コメントをいただけたらと思います。」

○西尾アドバイザー

「今日は事務局からかなり膨大な説明があつて、なかなか消化しきれないというところもあったかなと思いますが、私が外の視点から日光市の状況というのを簡単にご紹介しますと、一言で言うと日光市は全国的に見て、最も厳しい状況にある、厳しい現状だと思ひます。

それに対して、行政でやっている取組みというのは、逆に全国で最も進んでいる取組です。なかなか市役所は褒められることはないかと思ひますが、凄く良くやっているなと思ひます。

もう少し具体的に言ひますと、例えば今、施設が634施設あります、面積で53万6千㎡あります。それが東京ドームとかディズニーランドで換算するとこれ位になりますよという説明がありました。それでもまだピンと来ないのかなと思ひますが、一人当たり施設をどれ位持っているのかということと比較すると、先程説明ありましたが、全国平均の1.8倍あるんですね。

他の市よりも2倍近く施設が多いというのが日光市の状況なわけですね。私がいたさいたま市と比べると3倍なんです。さいたま市より3倍施設を持っているということなので、それは、さいたま市と比較すると、3倍深刻な状況にあると。

それだけのたくさんの施設を何とかしなければならぬということなので、非常に厳しい状況にあるということです。

もう一つ、日光市は全国で3番目に広い市ですよという話がありましたけれども、実は市域が広いということも難しい条件の一つなんです。

広ければ広いほど、一つの施設をやめてしまうと影響が大きい、施設から遠くなってしまう訳です。そういう意味でも、全国で3番目に広い市域であるということは、全国で3番目に難しい条件であるということなので、非常に厳しい状況にあると思ひます。

ですから、市役所も頑張らなければならぬですし、市民も一緒に頑張らなくては行けないのかなと思ひます。

それに対して、今、市の取組みですけれども、先程ご紹介がありました。国が全部の市町村必ず総合管理計画を作りなさいよと言っているんですけれども、それよりも早く、日光市では計画が出来ています。全国よりも2年早いんですね。

全国的には去年までに総合管理計画を作るといふものが、日光市の場合は平成27年には出来ていますから、2年早い。

その次に今度はこの計画を基に具体的な実行計画を作りなさいよということが言われていまして、それが、平成32年までなんです。ところが、日光市はもう平成28年にはこの実行計画が出来てしまっている訳で、全国より4年も早い訳です。

これだけ早く取り組んでいる自治体というのは、全国で数%、一割ない位です。通知表で言ったら5がつく位、早く取り組んでいるところなので、ただ、今日、話聞いていただいてもわかったと思ひますが、すごく難しい計画だと思ひます。

この計画作ったからもういいよということではなくて、これを実際に実行していくことがすごく難しいものなんです。そこは、やはり市民も一緒になって、理解と協力が必要だという市長のお話がありましたけれども、まさに市民が一緒になって、この計画に取り組んで行くということが必要になってくると思ひます。

それがこの委員会のすごく大きな意義じゃないかなと思ひます。その時に、あと2点申し上げたいのですが、副委員長が仰っていましたが、取組をする時に、大きな目的を見失わないようにしていかなければ行けないということをおっしゃっていましたが、この取組ってもちろんお金がなくて、対応できなくて危ないよ、だから何とかしなくては行けないよというお金の問題から入っているんですが、実はこれって、お金の問題ではなくて、日光という「まち」をどうしていくかという、まちづくりをどうしていくかという問題と両方考えていかないと行けないんですね。

議事内容

もちろん無い袖は振れないので、できないことはできないんですが、施設の面できちんとやらなければならないことをやりつつ、まちとして「良いまち、みんなが幸せになっていくまち」、特に副委員長が仰っていた、子供や孫の世代の話ですね。

施設の話って、何十年先の話ですから、何十年先の子供や孫の世代にどういう日光のまちを残していくのかという視点を絶対に忘れてはいけないという風に思います。

そのためには、これは一つの必要条件みたいなもので、最低限このことはやらなければならないんですよ、その上で、どういうまちを作っていきますよというプラスαのところは大事なので、これは行政からはなかなか出てこないところですね。

市民の視点から、こういうまちにしたい、自分達はこういうまちを子供達に残していきたいという思いが、これに乗っかってこない、本当の取組にはなっていないと思いますので、そういった観点で、この難しい計画を市民委員の視点で噛み砕いて、どういう風なまちにしたいのかということ、この委員会の中で話していけるといいのかなという風に思いました。

それで、最後2点目ですが、その時に情報がまだ足りないんじゃないかという風に思います。委員も仰っていましたが、文化会館のことを検討するのに、今この文化会館にどの位お金がかかっているのか、この辺も調べてあることだと思いますけれども、そういう話をもっと表に出して行って、そういう情報をもとに市民の中での議論にしていくべきだと思います。

委員5からもありましたが、10%しか使われていない、それは、実は駐車場が狭いからそういうことになっているという、そういった情報をどんどん表に出して行って、わかりやすくしていかなければならないと思いますね。

今は、スライド1枚にまとめられているので情報が少ないということもあるのかもしれないですけども、市民がこのことの検討するために必要な情報をもっとも必要なのがたくさんあると思いますので、そういうものを出して行って、今度はもっと具体的な市民にとって身近に感じられる課題にして検討していくということが大事だと思います。

さらにはこの問題は新しいテーマで、今までやったことのないような集約化とか複合化とかも検討していかなければいけないので、それは例えば全国に目を向けると色んな先進事例もある訳です。

例えば学校複合化するっていうのは、こういう良い例がありますよというような事例が出てくると、イメージがしやすくて検討もしやすくなるのではないかと思いますので、いろんな情報を出すとということと、イメージしやすいように、先進事例の良い例なんかも持ってきて、そういう中で、市民が検討しやすいようなやり方で進めていくことが大事なのかなと思いました。」

○委員長

「西尾先生ありがとうございました。第1回目の委員会ということで、せっかくですので、西尾先生に何かご質問がありましたら、何か聞きたいということがあれば。」

○委員6

「関係団体等の会議等で必要であれば、西尾先生に依頼して話をしてもらえればと思います。」

○委員長

「事務局の方からも特にないですか。では、無いようですので、7. その他の事項で事務局からありますか。」

7. その他

・事務局より事務連絡。

第2回の開催日は11月中旬頃を予定している、1か月前には開催日を通知させていただくので、ご出席をお願いしたい。

7月21日(金)に中央公民館中ホールで開催する「公共施設マネジメントセミナー」についてのお知らせ。

○委員長

「本日用意された議題につきましては、皆様のご協力により、無事終了いたしました。事務局に

議事内容

お返しいたします。」

○事務局

「本日は貴重なご意見、また活発なご意見をいただきましてありがとうございました。では以上を持ちまして第一回公共施設適正化推進市民委員会を終了させていただきます。」

以上